

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



街道と歴史が織りなす田辺郷

～模擬原爆投下跡から田辺大根の故郷まで～

庚申街道や下高野街道、難波大道など、数多くの歴史街道が交差して、古代・難波宮の時代から現代まで、さまざまな歴史や文化が織りなされてきた田辺郷。開高健の文学碑から模擬原爆の投下跡地、なにわ伝統野菜の田辺大根ゆかりの地・法楽寺など、バラエティに富んだまち歩きです。

5 俳優記念碑

映画やテレビがなかった、江戸から明治初期の時代、庶民の娯楽の第一は浄瑠璃でした。北田辺村でも村人による浄瑠璃芝居が盛んで、多くの俳優がいました。農閑期には他の村からも依頼されて芝居を打ったようで、その俳優達を記念して作られた珍しい石碑です。

1 近鉄南大阪線「北田辺駅」

かつての田辺は純然たる近郊農村で、天王寺など都市に行くには徒歩が主流でした。しかし大正3年(1914)に南海電鉄平野線田辺駅が開業(1980年廃止)。大正12年(1923)に南河内の鉄道が天王寺に乗り入れます。これが大阪鉄道(現在の近鉄南大阪線)で、そのときに北田辺駅が設置されました。畑のど真ん中に1両の電車が停まる小さな駅でしたが、鉄道の開通や大正14年(1925)の大阪市編入などで田辺の都市化は進んでいきました。ちなみに昔、大鉄の「鉄」は「金矢」(金遍に矢)と書きました。なぜだかわかりますか？

2 開高健文学碑

戦後文学の旗手で芥川賞、菊池寛賞、日本文学大賞を受賞した開高健(1930～1989)は、7歳の時に上本町から北田辺に転居。大阪市大在学中に創作活動を始め、卒業後、壽屋(現・サントリー)に入社してコピーライターとして才能を発揮。27歳の時に「パニック」を発表して作家として注目され、翌年「裸の王様」で芥川賞を受賞しました。その後、作家活動に入って東京へ移りましたが、終戦を挟んだ波瀾万丈の時代、多感な青少年時代を北田辺で過ごしました。自伝的小説「破れた繭」にはその頃の北田辺の風景と体験が描かれています。北田辺は開高の活動の原点であり、開高文学のふるさとといえます。

3 北田辺の大楠

樹齢は不明です(約300年?)。とある家の敷地内にありましたが、松虫通(木津川平野線)が幅拡延伸されるさいに切り倒される計画でした。しかし郷土を愛する地元住民から大楠を保存して欲しいという運動が起き、道路を湾曲させる形で保存されました。自然と人間の共生を象徴するモニュメントといえます。半世紀前までのこの辺りには「三杉の森」と呼ばれる森があって、大楠は旧北田辺村の北東角(鬼門)に位置しています。村の守り神のような木だったのかも知れません。

4 庚申街道

四天王寺南大門から庚申堂を通り、桃ヶ池まで南下、東方に進路を変えて、北田辺村の北辺を通り、中野村、瓜破村などを経て大和川沿い東の長吉川辺に至る街道です。四天王寺や庚申参りへの信仰の道であるとともに、大阪と各村を結び、野菜や下肥などを運ぶ生活道路でもありました。

大阪あそび歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。



6 銘菓処 松屋

昭和26年(1951)に南海平野線田辺駅近くで創業。現在の2代目店主・松井和雄さんは和菓子の伝統を活かしながら、地域にちなんだ新しい菓子の創作に意欲的です。地元の伝統野菜・田辺大根の復活を機に創作した「銘菓・田辺大根」もその一つです。

7 模擬原爆投下跡の碑

終戦直前、アメリカは長崎に投下した原爆と同じ型、同じ重さで通常火薬を詰め込んだ5トンの巨大爆弾を作り、日本全国各地で原爆の投下訓練を繰り返していました。長らく埋もれていた歴史事実でしたが、1991年に愛知県「春日井の戦争を記録する会」が国立国会図書館で、機密扱いが解除された米軍資料を閲覧して発見。7月26日に田辺に模擬原爆が投下され、この11日後に広島に原爆が投下されました。大阪も広島、長崎の悲劇に繋がっていたわけですが、石碑は戦争のない世界の実現と全人類の共存と繁栄を願って、2001年に建立されました。

9 うどんや風一夜薬本舗

明治9年(1876)創業。全国的にも有名な風邪薬で、大阪では風邪をひいたらこの薬を飲んで熱々のうどんを食べて身体を温めてよく寝る風習がありました。戦前はどのうどん屋さんにもこの薬を置いていましたが、今は百貨店の薬局などに置いています。辛味のきいたしょうが餡も人気です。

11 難波大道跡

難波大道(なにわだいどう)は日本書紀にも記されている古代の官道です。難波宮から南に延び、南端は長尾街道・竹内街道・河内和泉国境との交点のいずれか(すべて堺市)と考えられます。南北の難波大道が東西に走る街道とクロスし、それが住吉の津や飛鳥と繋がっていました。大和川今池遺跡から幅約17メートルの官道跡が出土していて、天王寺区の「大道」という地名も難波大道に由来すると言われます。難波大道の直線軌跡が法楽寺西門に当たります。

8 下高野街道

平安時代以降、京都から高野山や熊野へ詣でる人々が増えて、熊野街道以外にも和歌山に通じる東、西、中、下の各高野街道が発達しました。下高野街道は天王寺から田辺を縦断して、現在の堺市北野田に至る街道で狭山街道とも言われ、田辺の人間にとっては大切な生活道路でもありました。

10 神馬塚

住吉大社の神馬の飼育は代々、田辺が行っていました。伝説によれば神功皇后が朝鮮半島から見事な白馬を持ち帰って住吉大社で飼育していましたが、ある日、失踪。探してみると田辺の地で休んでいて「馬はここを好んでいるようだ」と神馬の飼育を田辺の住民に任せたといいます。以来、連綿として戦前まで神馬は朝夕、田辺と住吉大社を往復していました。神馬塚はその馬のお墓です。

12 法楽寺

真言宗泉涌寺(せんじゅうじ)派の大本山で、平安末期に平重盛(1138～1179)が創建したと伝わります。「田辺のお不動さん」として親しまれ、「絹本著色不動明王二童子像」は国の重要文化財に指定されています。また境内には樹齢800年以上といわれる大楠があります。樹高約26メートル、幹の外周約8メートル、枝葉の外周約26メートルで、恐竜のような根が大地にはっついて、大阪府下では住吉大社の楠の次に古く、大阪府指定天然記念物の指定を受けています。山門をくぐって正面にある三重の塔は平成8年(1996)に完成したもので鎌倉様式です。

13 田辺大根の碑

江戸時代の田辺は綿栽培が盛んでしたが、綿のあいだに植えた大根が美味しいと評判で、田辺大根として全国的にも有名でした。明治6年(1873)開校の田辺小学校の校章が田辺大根であるのも当地の名産であった証拠ですが、明治以降は田辺の都市化等により畑が消滅し、まぼろしの野菜と言われていました。しかし2000年に種子が保存されていることが分かり、地域住民による復活運動で大阪の伝統野菜として蘇りました。短根、白首、下膨れで肉質は緻密。葉は産毛なく大きく育って、生だと辛味があり、煮ると甘味が出ます。大正期には品種改良されて、法楽寺の西横門で盛んに栽培されたことから「横門大根」ともいわれ、それに因んで法楽寺境内に田辺大根碑が建てられました。12月28日の終い不動の日には田辺大根炊きが参拝者にふるまわれます。

14 山阪神社

飛鳥時代、田辺は田辺氏(渡来系氏族)の支配地で、田辺氏は祖先神を東と西に祀りました。その後、東神が針中野にある中井神社となり、西神が山阪神社(江戸時代までは山坂神社)となりました。住吉大社の末社でもあります。神社の地域が小高くなっており、古墳跡と思われる。祭神は天穂日命(あめのほひのみこと)、合わせて相撲の神でもある野見宿禰(のみすくね)が祀られています。かつては奉納相撲が境内で行われていて、境内にあるいくつもの力石がその名残をとどめます。現在は大相撲春場所の九重部屋の宿舎になっています。今も祭には縁日ムードがあふれますが、かつては見せ物小屋などが建ち並び、子ども心をときめかせました。

【注意事項】この地図は「大阪あそび歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび歩」事務局 電話06-6282-5930 (財団法人大阪観光コンベンション協会内)
「大阪あそび歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそび歩」でネット検索を。